

授業概要

本講義ではイスラームの成立した7世紀から現代に至るまでのイスラーム諸王朝の興亡と統治体制、さらには文化や思想などを網羅的に学ぶことを通じて、世界各地に拡大したイスラーム社会の特徴について理解するための基礎的知見の獲得を目指す。近年では身近なものになりつつあるイスラーム社会の歴史全体を大まかに把握することで、イスラームという宗教が社会的に大きな影響力を有した各地域における社会規範や文化的特徴がどのようなものであるのかについて理解を深める。そのため、講義においてはイスラーム勃興期の中東から北アフリカ・イベリア半島、さらには南アジアや中央アジアなど世界の様々な地域におけるイスラーム社会の歴史・思想・文化について取り上げて講義を行う。また、同時代の日本や世界情勢との連関についても意識しつつ、グローバルな観点から物事を考察する視点を重視する。

授業計画

第1回	イントロダクション、イスラームの成立と展開
第2回	初期イスラーム社会の形成と正統カリフ時代
第3回	ウマイヤ朝とイスラーム勢力の拡大
第4回	アッバース朝の繁栄と統治
第5回	イスラーム法学の形成と発展、シーア派の成立
第6回	北アフリカ・スペインにおけるイスラーム諸王朝と思想・文化
第7回	チュルク系諸民族の活動とモンゴル帝国の繁栄
第8回	北アフリカ・スペインにおけるスンナ派復興運動とレコンキスタ
第9回	十字軍とイスラーム社会
第10回	ティムール朝の繁栄：統治機構、文化・学術の発展
第11回	サファヴィー朝の成立と統治
第12回	オスマン朝の時代：統治機構とヨーロッパ諸国との相互関係
第13回	イスラーム改革運動の展開
第14回	世界大戦とイスラーム社会：パレスチナ問題から中東戦争とアラブ主義
第15回	現代社会とイスラーム：イラン革命と「アラブの春」から現代へ
第16回	筆記試験

到達目標

- ① イスラームの成立期から現代に到るまでのイスラーム史全体の大まかな流れを把握する。
- ② 各時代・地域におけるイスラームの政治・思想・文化の特色を理解する。
- ③ イスラーム関係史を学ぶことでイスラーム社会を身近に捉え国際的視野に基づいた理解力を養う。
- ④ グローバルな視点を養い、世界の様々な事象に関心を寄せることができる基礎的知見を身につける。

履修上の注意

高校時代に世界史を履修していた人は教科書の該当部分を確認しておくとう理解が容易になります。ただ、世界史を履修していなくても一から理解できるような講義を行いますので、前提となる知識は必要ありません。

予習復習

予習は必要ありませんが、授業中に毎回配布するプリントの内容を復習し、基礎的事項を確認・復習してください。

評価方法

授業期間中の小テスト・リアクションペーパーの提出など参加点（40%）、および学年末筆記試験（60%）にて評価します。

テキスト

教科書は使用せず、毎回プリントを配布します。授業中に取り上げた事項についてさらに深く学ぶために必要な書籍などは適宜授業中に紹介します。